



(表面「平清盛」観光の続き)

■質問(2)

平清盛ゆかりの地周辺の商店街では地域魅力を伝えたいと企画しており、例えば六間道四丁目商店街では独自でレンタサイクルを企画している。一方で神戸市はまち・チャリ

シャトルの社会実験を、中央市場前駅を拠点に来年度も検討しているが、ステーションや自転車と共有したりという相互の連携ができるのでは。地域と協力して清盛ゆかりの神戸という価値を創造するキャンペーンにすべきではないのか。

■答弁(山本観光コンベンション推進室長)

現在多様な主体が清盛をテーマに取り組みを行なっている。平野の商店街では当地キャラクターとしてのきよもんを製作、キャラクター商品も販売。中央卸売市場では清盛パーガを開発、運河祭で販売するなどしており、市も公式ウェブサイトで広くPRをしていくほか、地域団体あるいは商業者に対しても広く参加を呼びかけていく。環境局のまち・チャリシャトルは六間道商店街のレンタサイクルとは共存できると考えており、地域の事業と合わせて誘客につながるよう連携を図りたい。

3 中央卸売市場本場の西側跡地利用

■質問

現在歴史館となっている中央卸売市場本場の西側跡地の利用は、検討委員会から報告書が提出さ

れ、市が活用を決定する段階である。市場からは、生鮮市場を活性化の資源にと要望されており、報告書も食文化関連機能、地域全体の賑わい、運河の活用を求めている。これからコンペで事業者を決定するうえで、どこまで条件提示していくのか。

■答弁(谷口局長)

中央卸売市場西側は市場関係者・学識経験者からなる検討委員会で検討いただき、周辺自治会等にもヒアリングを行い、中央市場と兵庫運河に隣接の立地を生かし、兵庫区南部のにぎわいをリードすることの提言をうけている。この中身を踏まえ、コンペの要項を作成をして23年度中にコンペを実施できればと考えている。

その後

平成24年2月、事業者募集が開始されました。運河を活かす、食文化関連機能をもった集客施設であることが条件となっています。応募事業者が地元の声を聞く機会を設けたいということで、市民の資産が有効に活用されるよう今後の経過を見守りたいと思います。

4 商店街・市場の活性化

■質問

22年度は商店街小売市場「知っ得！買っ得！」事業として、6千万円余りの事業費をかけクーポンつき情報誌の発行があった。1冊で全市をカバーする新しいとりくみの効果の検証はできているのか。また、目的を持った顧客層をつかむにはインターネットが力のある媒体となっている。新たな取り組みに関心があっても能力や資金面で参入しにくいと感じている小売店に、支援策を講じる必要があるのではないか。

■答弁(谷口局長)

成果については、掲載の商店街・市場へのアンケートでは集客効果があったという回答が78%。

クーポン利用者へのアンケートでは20%の方がふだん余り利用しない店に行ったりと回答があり、ふだん商店街・市場に行かない層への情報発信で来たと思う。そこで23年度もそれぞれの商店街・小売市場が中心になって独自に発行する情報誌を考えている。

インターネットでは、既存のツールを使えないかということ、新規事業として楽天市場でネット販売を行なえるよう勉強会を開催して、サポートも専門家にお願います。楽天のホームページのトップページに神戸の商店街・市場の逸品展といった形で全国に露出していききたい。

5 スーパーコンピューター京

■質問

世界一の演算性能をもつ「京」の24年秋の本格稼働に向けて期待が持たれている。多くの市内企業にとって世界最速というスペックをどう活用できるのかはまだ不透明であると思うが、どうやって市内産業の活性化に結びつけていくのか。

■答弁(今西参与)

今後料金など決まれば一層「京」への関心も高まると考えている。現在はスパコン活用に向けて市が兵庫県と設立した計算科学振興財団が、時間単位で低廉な料金で利用できるFOCUSスパコンを導入、38社が利用している。スパコンになじみのない企業へはセミナーの開催、企業への個別訪問による啓発・支援を行う。また神戸大学と連携し技術者育成のためのシミュレーションスクールを開催している。世界最高峰の計算資源が神戸に集積している優位性を生かし、神戸の産業の活性化につなげていくためには人材の育成、ニーズに応じたスパコン用のソフトを提供できるビジネス環境づくりが重要と考えている。